

図6 樽前山 赤外熱映像装置によるB噴気孔群の地表面温度分布の比較

南西側(図3-④)から撮影

- ・前回(2020年6月)の観測と比べて、地表面温度分布に特段の変化は認められませんでした。

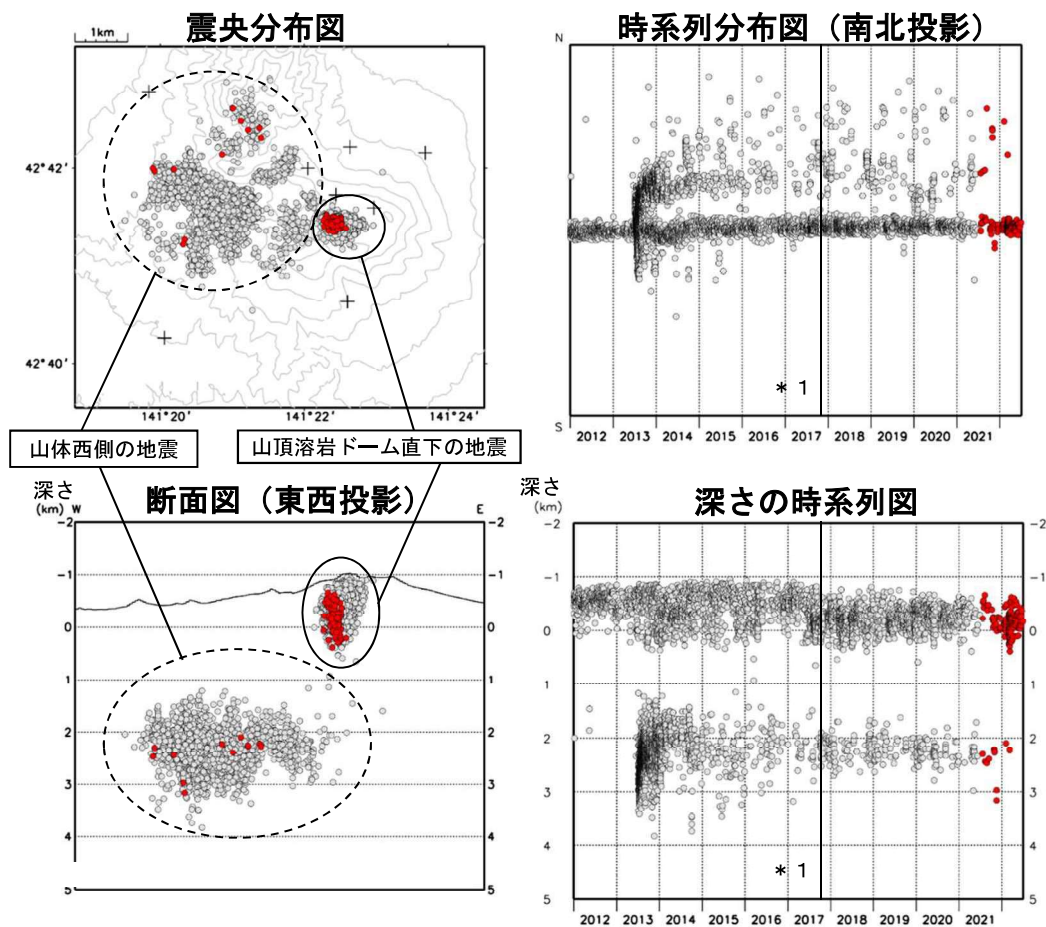


図7 樽前山 火山性地震の震源分布(2012年1月~2022年6月)

○印: 2012年1月~2021年6月の震源 ●印: 2021年7月~2022年6月の震源 +印: 地震観測点
2017年10月31日(*1)以降、震源計算に利用する観測点を変更しています。

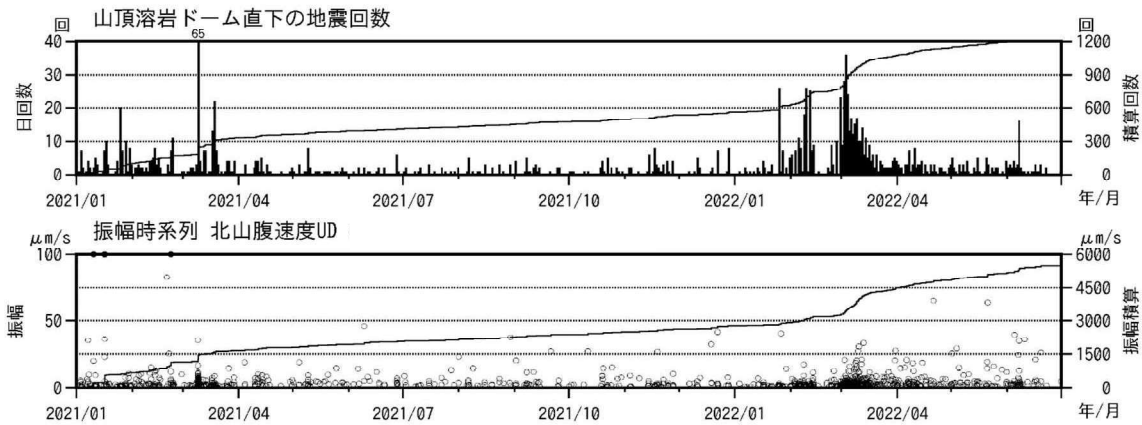


図8 樽前山 山頂溶岩ドーム直下の地震の推移 (2021年1月~2022年6月)

上: B型の地震(山頂溶岩ドーム直下の地震)の地震回数と積算回数

下: B型の地震の最大振幅(北山腹速度上下成分)とその積算

- ・2022年1月下旬から3月中旬にかけて、山頂溶岩ドーム直下を震源とする地震が増加しましたが、いずれも振幅は小さいものでした。

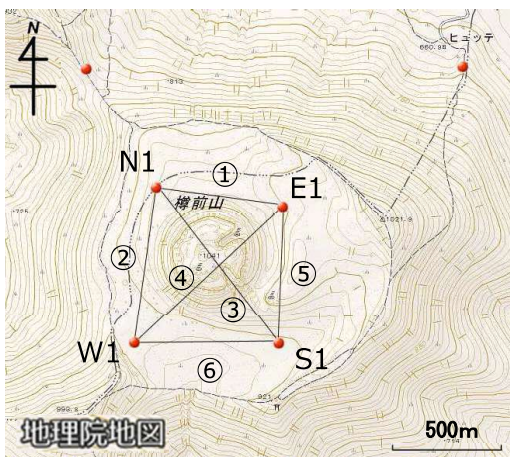
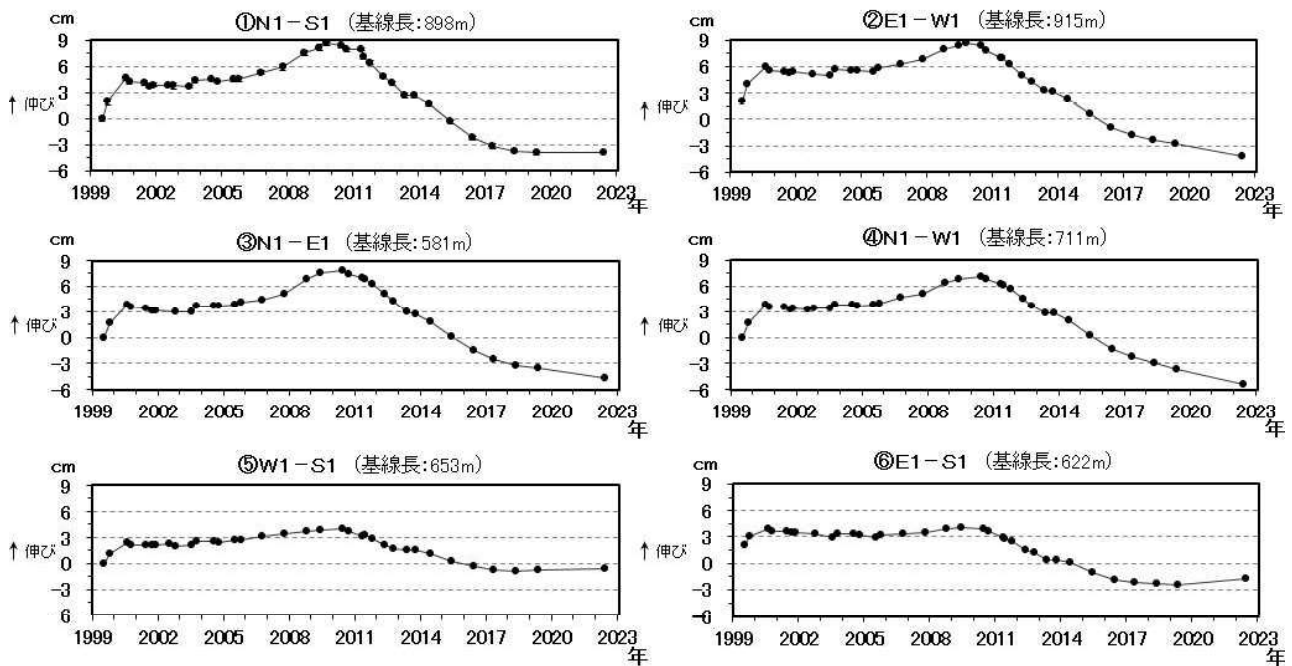
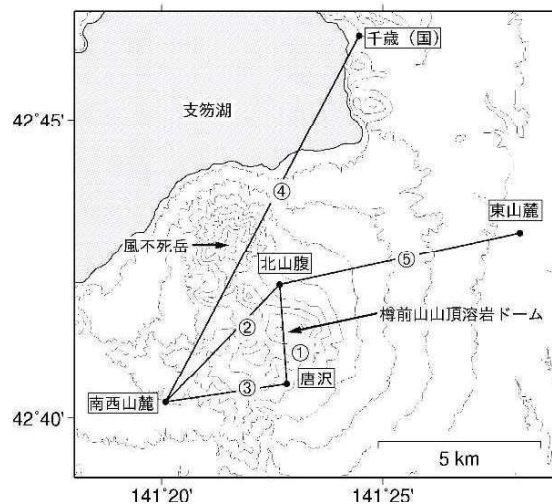
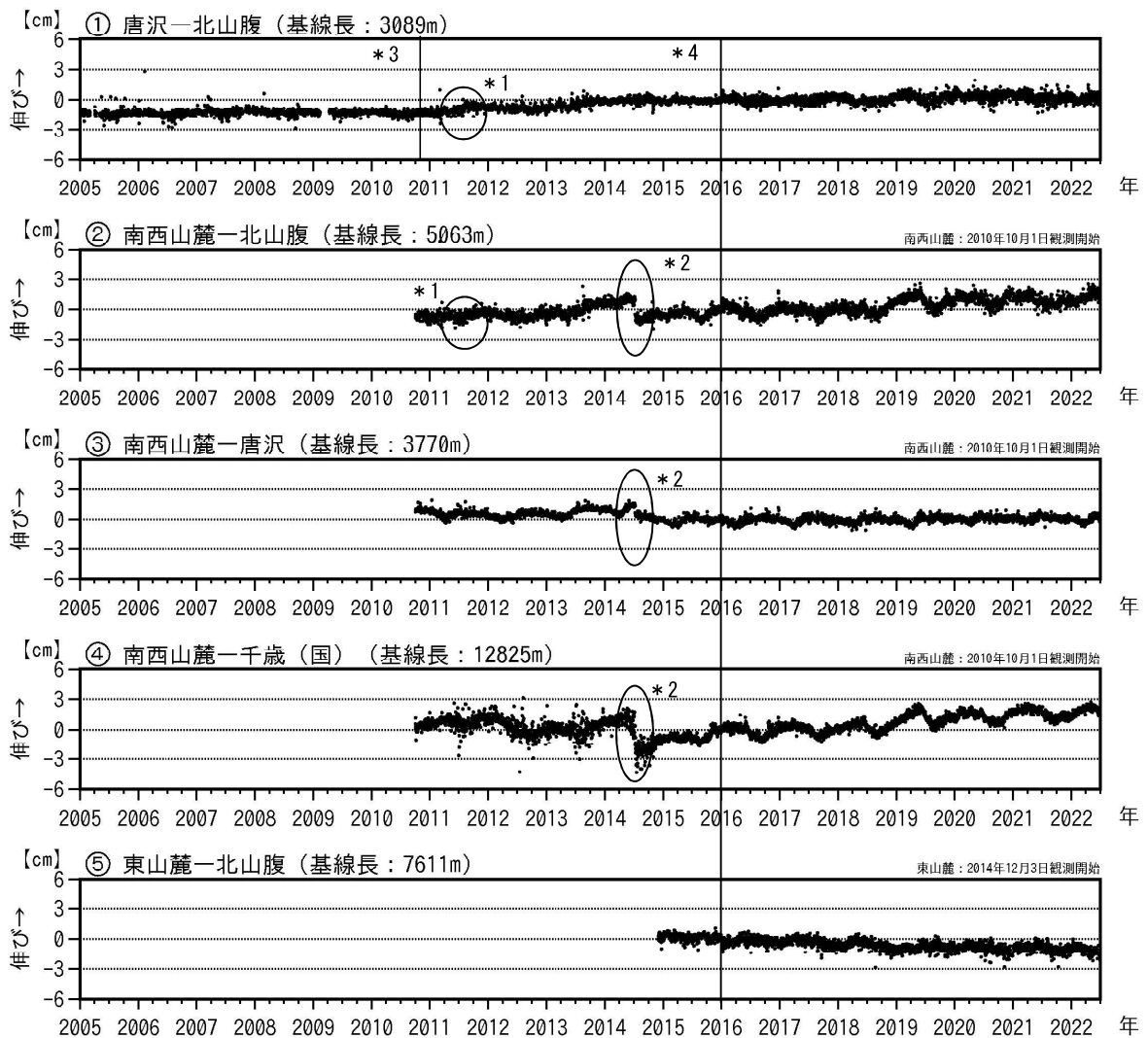


図9 樽前山 GNSS 繰り返し観測による基線長変化 (1999年~2022年) 及び観測点配置図と基線組み合わせ

- ・基線②③④では、わずかな短縮の変化が引き続き観測されました。



気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています。
(国)：国土地理院

図10 樽前山 GNSS連続観測による基線長変化(2005年1月～2022年6月)及び観測点配置図

グラフ①～⑤は観測点配置図の基線①～⑤に対応しています。

グラフの空白部分は欠測を示しています。

①、②の楕円内の変動(*1)は、2011年7月の機器更新によるものです。

②～④の楕円内の変動(*2)は、2014年7月8日に発生した胆振地方中東部の地震によるものです。

2010年10月(*3)及び2016年1月(*4)に解析方法を変更しています。

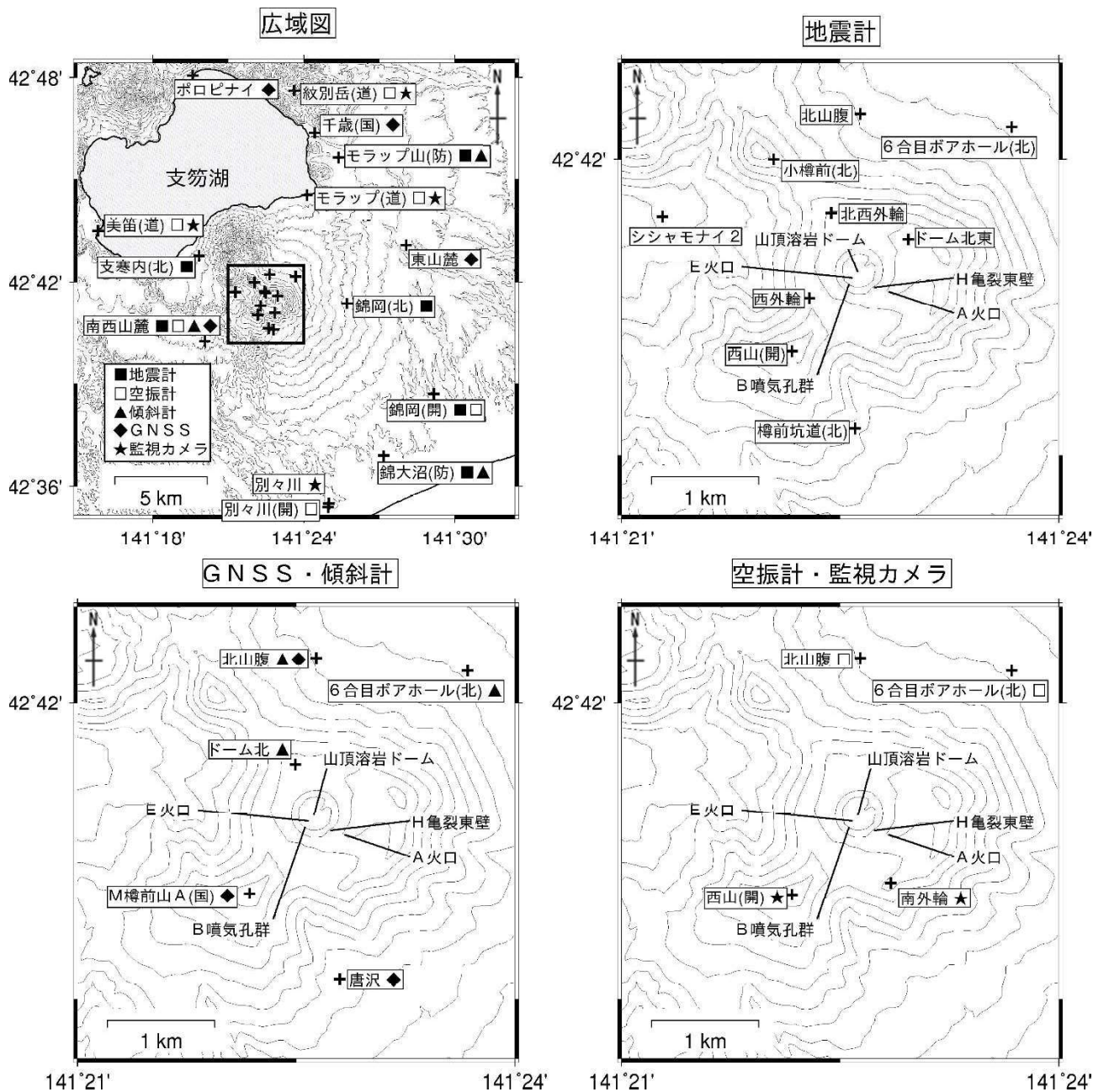


図11 樽前山 観測点配置図

各機器の配置図は、広域図内の太枠線で囲まれた領域を拡大したものです。

+印は観測点の位置を示します。

気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています。

- (開)：国土交通省北海道開発局
- (国)：国土地理院
- (北)：北海道大学
- (防)：国立研究開発法人防災科学技術研究所
- (道)：北海道